

# 一般用医薬品のインターネット販売等の新たな ルールに関する検討会（第2回）

平成 25 年 2 月 27 日  
公益社団法人日本薬剤師会

最高裁判決を踏まえ、生活者の安全な医薬品使用を担保することを目的としたこれまでの販売制度に則して、薬事法を再整備していただきたい。

一般用医薬品の適正な供給にあたっては、適正使用及び安全性の担保について、生活者との即時性・確実性を有する双方向のコミュニケーションによる対面販売が重要である。

## 薬局での一般用医薬品の相談対応等に関する調査結果について

社団法人 日本薬剤師会

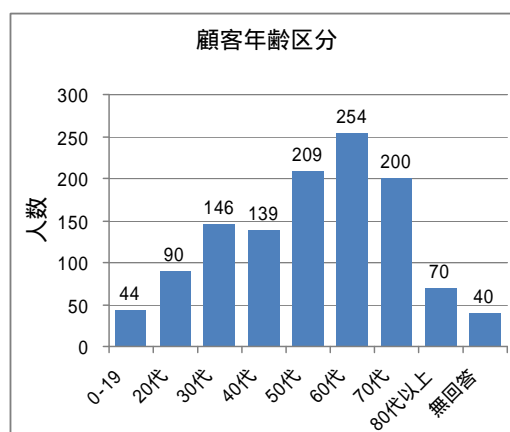
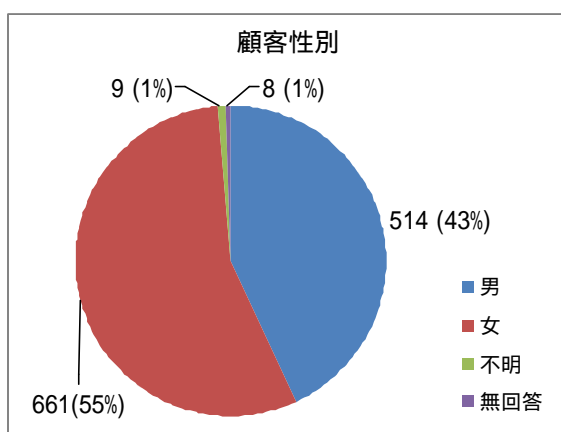
1. 調査名 : 平成 23 年度 一般用医薬品の相談対応等に関する調査
2. 調査期間 : 平成 23 年 7 月 28 日 ~ 平成 23 年 8 月 31 日
3. 調査票の配付方法 : 本会からサポート薬局に郵送 ( 返信用封筒も同封 )
4. 調査票の回収方法 : 同封する返信用封筒でサポート薬局から本会へ返送
5. 調査依頼薬局数 : 9 5 3 薬局
6. 回答薬局数 : 6 1 8 薬局 ( 回収率 6 4 . 8 % )
7. 調査対象

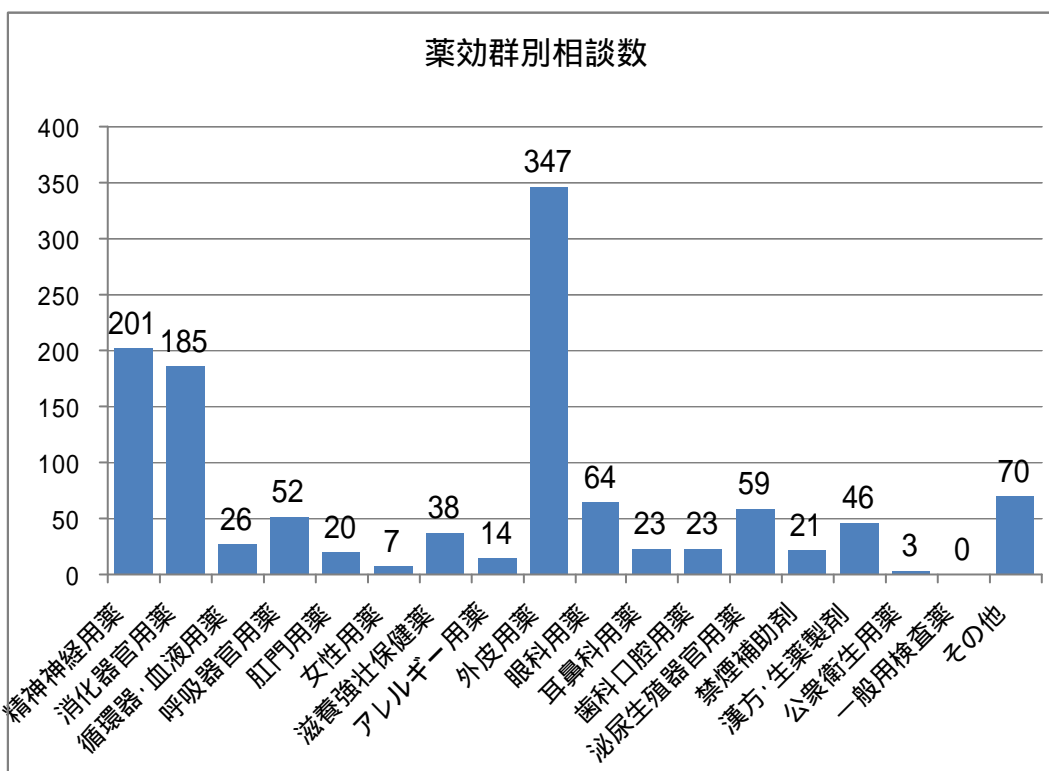
一般用医薬品 ( 医薬部外品も含む ) の購入や相談を目的として来局した顧客からの相談を受けた結果、下記のような事例。

- ・現在使用中の一般用医薬品の使用中止の進言をした事例
- ・一般用医薬品の販売を行わなかった事例
- ・医療機関への受診を勧めた事例
- ・製品名や成分名を指名してきたが、相談応需の後に変更した事例
- ・平成 22 年 9 月 1 日から平成 23 年 8 月 31 日までの過去 1 年間の事例で、なるべく記憶が鮮明な例。相談記録 ( 販売記録 ) などから内容が明確な場合は、平成 21 年 6 月以降 ( 改正薬事法施行以後 ) の事例であれば報告可能。

### 8. 調査結果概要

回答薬局のうち、433 薬局から 1192 事例を収集 ( 内 1184 事例が有効回答 )





## 具体的事例

### 事例 1

相談対応：特に思い当たらないが吐き気あり。吐き気止めの薬を買いに来る。腹部の張りがあり痛みがある。便秘(数日便無し)。今まで便秘無し。腸閉塞の疑いがあるので至急病院に行くよう勧める。

転帰：病院へ行く。次の日腸閉塞の手術を行う。

### 事例 2

相談対応：胃痛を訴え来局。医療用医薬品の鎮痛剤を複数服用しており、OTCの胃薬購入を希望したが、潰瘍の恐れもあるため内科受診をすすめた。

転帰：内科を受診し、胃カメラ検査の結果、潰瘍には至っていないが、炎症があるため、鎮痛剤を中止し、H<sub>2</sub>ブロッカーの処方となった。

### 事例 3

相談対応：ご主人の便が出ないと家族が来局。腹が張り苦しいと本人が言う。1週間前から、下剤(センナ系)浣腸もためしたが出ないとこのことで、手持ちの医療用医薬品とOTCを持参し相談される。出ない事から、腸閉塞など、器質的なもの疑い、すぐにかかりつけ医へ行き検査するように伝え、販売せず。

転帰：かかりつけ医より基幹病院へ紹介され、検査の結果癌により、そのまま入院となった。

#### 事例 4

相談対応：腹痛で来店、心臓病（狭心症）の方なのですぐの受診をすすめる。

転帰：心筋梗塞ですぐに大病院へ手術となる。後日、命を助けてもらったと大変喜ばれる。

#### 事例 5

相談対応：ご家族が来店され、80代の男性で1週間前から咳が続く。微熱が出ているので、風邪薬か咳止めが欲しい。肺炎の可能性を疑い、医薬品販売せず、かかりつけ医への受診を勧奨した。

転帰：病院に行き、検査結果、肺炎の為2週間入院した。

#### 事例 6

相談対応：病院嫌いの方で、OTCの咳止めを使用しており、指名買いで来店。喘鳴があり、あきらかに喘息症状の為、販売せず、受診をすすめる。

転帰：不満で帰宅したが、後日来店、病院に行ってよかったと感謝される。

#### 事例 7

相談対応：1週間以上より咳が続くと訴え来局。咳止めを希望したが、喘息を疑い、医薬品を販売せず近隣の内科医院を紹介し、受診勧奨した。

転帰：喘息と診断され、抗生剤、吸入（ステロイド+ 刺激剤）、抗ロイコトリエン剤、去痰薬が処方され、2週間くらいで喘息消失、吸入、抗ロイコトリエン、去痰薬引き続き服用中。

#### 事例 8

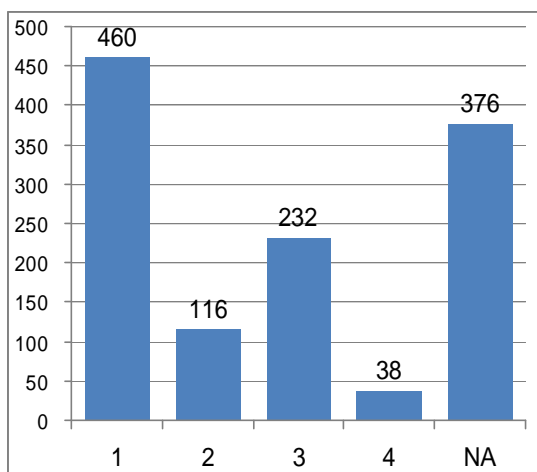
相談対応：咳が止まらないので、ある咳止めを指名し、それが欲しいとのこと。2～3日前にも同じ医薬品を購入された。不適切な使用の疑いがあり販売せず、受診勧奨。

#### 事例 9

相談対応：「咳止め A（指名）下さい。なければ咳止め B（指名）でも。」と来局。症状を聞くも口ごもった感じ。他の鎮咳薬すすめたが、嫌だと。不適切な使用の疑いがあり、販売せず。

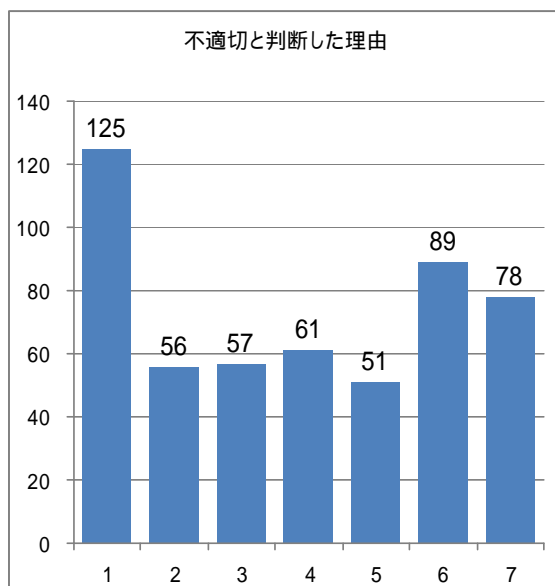
薬局で、これら事例をどう判断したか。(複数回答)

	回答者数	割合
1 一般用医薬品での対応は困難な要件、あるいは不適切な症状と判断	460	38.6
2 使用中の医薬品の使用は不適切と判断(同一あるいは同効医薬品の継続使用の場合)	116	9.7
3 指名医薬品の使用は不適切と判断(指名・薬効群指名の場合)	232	19.5
4 その他	38	3.2
NA 無回答	376	31.5



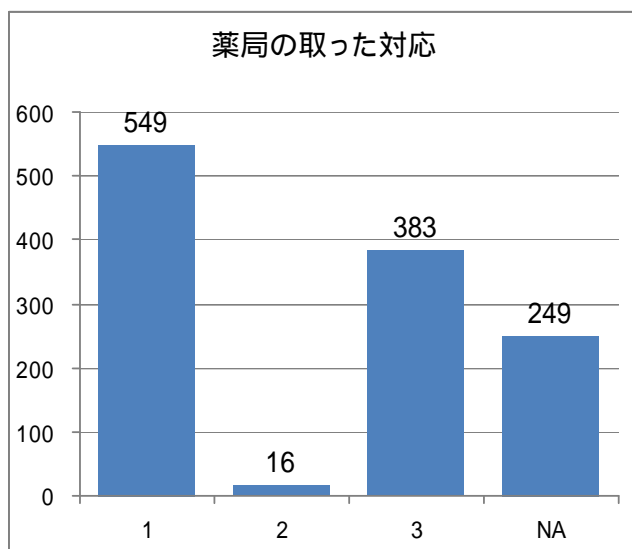
医薬品の使用を不適切と判断した理由(複数回答)

	回答者数	割合
1 指名医薬品(継続使用希望)の使用が不適切	125	31.2
2 副作用など有害事象発現	56	14.0
3 使用中(継続使用希望)の医薬品で症状などが不改善	57	14.2
4 既往歴、併用薬により不適切	61	15.2
5 長期連用の疑い	51	12.7
6 不適切使用(誤使用、目的外使用)の疑い	89	22.2
7 その他	78	19.5



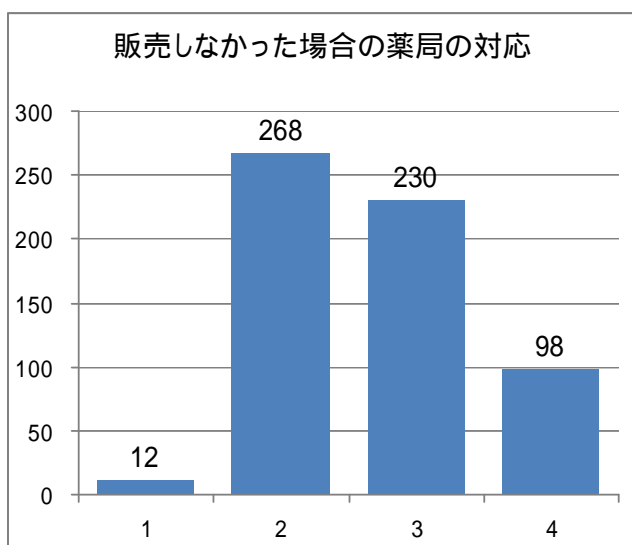
薬局では、どのような対応をしたか。(複数回答)

	回答者数	割合
1 医薬品を販売しなかった	549	46.1
2 指名(製品名・成分名)以外の医薬品を推奨したが買わなかった	16	1.3
3 医薬品を販売した	383	32.1
NA 無回答	249	20.9



次ページ  
販売しなかった場合の薬局の対応(複数回答)

	回答者数	割合
1 助言を断られた(何も出来なかった)	12	2.1
2 かかりつけ医の受診をすすめた	268	47.6
3 かかりつけ医の以外の医療機関(診療科)の受診をすすめた(紹介した)	230	40.9
4 その他	98	17.4



販売した場合の薬局の対応（複数回答）

	回答者数	割合
1 指名(製品名・成分名)医薬品以外の推奨品	163	41.6
2 顧客が当初に指名(製品名・成分名)した医薬品	69	17.6
3 医療機関に受診するまでの「つなぎ」目的の医薬品	101	25.8
4 その他	91	23.2

